

国史跡本證寺境内

指定10周年記念シンポジウム

本證寺境内の 歴史と未来



2025年 12月20日(土)

時間 午後1時から5時(午後0時30分開場)

会場 安城市中心市街地拠点施設 アンフォーレ

定員 190名(要事前申込)

参加費 無料

パネリスト

村岡幹生 (中京大学名誉教授)

安藤 弥 (同朋大学教授)

鈴木正貴 (愛知県埋蔵文化財センター調査研究主任)

岩井浩介 (文化庁文化資源活用課整備部門文化財調査官)

山崎裕太 (安城市教育委員会文化振興課学芸員)

司会

安田 暖 (やしの実FM(エフエム豊橋))

西島庸介 (安城市教育委員会文化振興課)

主催
安城市教育委員会



本證寺境内の歴史と未来

雲龍山^{ほんしょうじ}本證寺は安城市野寺町に所在する、鎌倉時代に創建された浄土真宗の寺院です。三河における初期真宗の拠点の一つであり、三河三か寺の一つに数えられます。戦国時代には松平（徳川）家康が戦った三河一向一揆の舞台となり、江戸時代には三河における東本願寺派の最有力寺院として存在しました。

鎌倉末期の作と考えられる国指定重要文化財「絹本着色 善光寺如来絵伝」・「絹本着色 聖徳太子絵伝」や、室町初期の作である県指定文化財「木造 慶円上人坐像」といった真宗美術品が多く伝わっています。また、境内には土塁・堀が今も残り、発掘調査によって、戦国時代から大規模な堀に囲われていたことが分かっています。本證寺境内は「城郭寺院」の姿をよく示す、全国的にも貴重な遺跡なのです。

こうした歴史的価値が認められ、平成27年（2015）には「本證寺境内」の名称で国指定史跡となりました。安城市では現在、国史跡本證寺境内の史跡公園化を進めています。

本シンポジウムでは国指定から10周年を記念して、安城市が誇る史跡である本證寺境内について知っていただき、未来の本證寺境内について考えていきます。

お申し込みは右のQRコード、または
安城市埋蔵文化財センターのホームページからお願いします

参加申込



申込期間

11月1日（土）～11月20日（木）

- ・申込多数の場合は抽選
- ・定員に余裕のある場合は、当日受付（先着順）もいたします

タイムスケジュール

12:30 開場

13:00 開会

13:10 「国史跡本證寺境内の概要」

山崎裕太（安城市教育委員会文化振興課学芸員）

13:40 「野寺本證寺の歴史—真宗寺院と地域社会—」

安藤 弥（同朋大学教授）

14:10 「本證寺寺内と寺領—一揆赦免の前後—」

村岡幹生（中京大学名誉教授）

14:40 休憩

14:55 「本證寺境内の発掘調査成果」

鈴木正貴（愛知県埋蔵文化財センター調査研究主任）

15:25 「史跡等の保存・活用と本證寺境内—灯を継ぐ寺院と歩む史跡の整備—」

岩井浩介（文化庁文化資源活用調整部門文化財調査官）

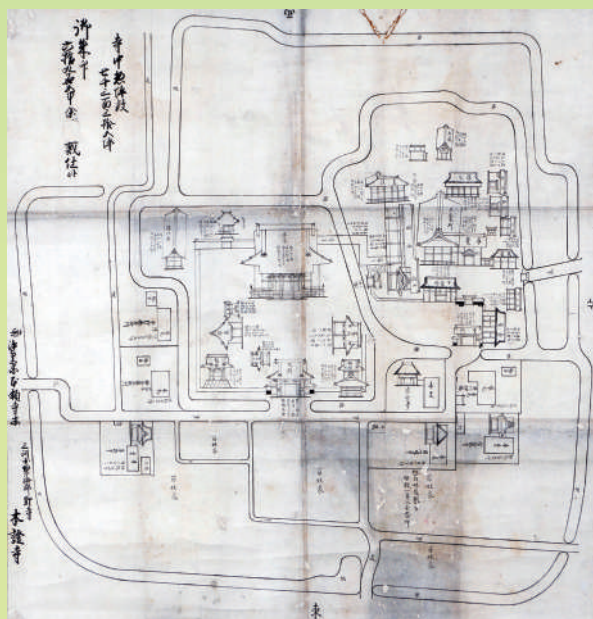
15:55 休憩

16:10 座談会

司会 安田 暖（やしの実FM(エフエム豊橋)）

西島庸介（安城市教育委員会文化振興課）

16:50 閉会



本證寺伽藍絵図（本證寺蔵、寛政年間）

江戸時代の本證寺の寺内（境内）を描いた絵図です。内堀と外堀によって寺内が囲われていることがよくわかります。江戸時代の内堀・外堀は多くの地点で戦国時代の堀を再掘削しているため、本絵図は戦国時代の本證寺境内の姿を探る糸口として利用されてきました。



発掘調査で検出された戦国時代の外堀
戦国時代の本證寺境内は深く鋭いV字型の堀で囲われていました。三河一向一揆のときには掘削されていた可能性が高く、本證寺は一揆方の重要拠点でした。

アンフォーレへのアクセス

〒446-0032 愛知県安城市御幸本町504番地1



■ JR 東海道本線安城駅南口から徒歩5分

■ あんくるバス

循環線0番系統（右・左まわり）、
西部線6番系統、作野線7番系統「アンフォーレ」下車すぐ

■ 名鉄バス

「アンフォーレ」下車すぐ

■ 駐車場273台（有料）

※アンフォーレ本館のご利用で最初の2時間まで無料

※満車の場合は、安城駅西駐車場東棟又は市役所立体駐車場をご利用ください

※当日は混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をおすすめします

問合せ

安城市教育委員会文化振興課文化財係

TEL 0566-77-4477

FAX 0566-77-6600